

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 220

2011年

5～6月号

行 事 案 内

5月手賀沼探鳥会とカウント

5月の定例探鳥会はEnjoy手賀沼！第22回バードウィーク手賀沼探鳥会（5月8日）に代えます。詳細はP2をご覧ください。

6月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 6月12日（日） 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 夏鳥の季節です。葦原ではオオヨシキリが大きな声で囀っています。また、葦原すれすれに飛ぶヨシゴイ、上空にはサシバの姿も期待できます。それに近年特に増えたコブハクチョウの雛も見られることでしょう。じっくり観察しましょう。

解 散 正午
担 当 北原

筑波山探鳥会

期 日 5月15日（日） 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前7時
案 内 恒例の筑波山探鳥会です。本隊（健脚向き）は筑波山の裏側から探鳥しながら御幸ヶ原に登ります。別隊（一般向き）は筑波山神社で探鳥後、ケーブルカーを利用して御幸ヶ原で本隊と合流します。その後、男体

山を周遊する自然研究路を一周し、裏側から下山します。ソウシチョウ、オオルリ、キビタキなどの美声と姿に出会えるでしょう。

交 通 自家用車分乗です。便乗者は一人1,500円を運転者にお渡しください。なお、申込みの際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡ください。

持 物 観察用具、雨具、昼食（途中購入可）
申 込 鈴木静治まで（本隊、別隊の希望をお知らせください。）

Tel : 04 - 7169 - 4191

担 当 鈴木、染谷

（注）ケーブルカー利用者は別途片道大人570円、子供290円必要です。

八千穂高原探鳥会

5月の一泊探鳥会は軽井沢・菅平方面の計画でしたが、予定していた宿舎が諸事情により確保できないため、八千穂高原に変更します。

期 日 5月21日（土）、22日（日）
集 合 我孫子駅北口 午前7時
案 内 八千穂高原は北八ヶ岳に広がる高原地帯です。自然園や東洋一といわれる白樺林、標高2,000mを超える日本最高所の白駒池などを巡り探鳥します。当会では2004年以来7年ぶりの当地探鳥会となります。カ

笹川・印旛沼探鳥会

ツコウやジュウイチ、オオルリ、キビタキなど、夏鳥に加え亜高山の鳥も期待できます。山荘周辺ではウソやアカゲラの他、小動物も観察されます。白駒池や早朝には鳥たちの囀りのシャワーを聞くのも楽しみです。

交通 小型バス
宿 舎 八千穂山荘
長野県南佐久郡佐久穂町千代里
2093
Tel : 0267 - 88 - 3533

費用 20,000 円程度 (昼食は各自負担)
定員 20 名 (定員になり次第締め切りしますので、早めに申し込んで下さい。)

持物 観察用具、防寒具、雨具、洗面用具
申込 桑森亮まで
Tel/Fax : 04 - 7182 - 3149
* 詳細案内は、参加申込みの皆さんに後日お知らせします。

担当 桑森、松本

期 日 6 月 26 日 (日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前 8 時
案 内 笹川周辺ではオオセッカ、コヨシキリ、オオヨシキリ、コジュリンなど葦原の鳥たちのにぎやかな囀りが楽しめます。そして印旛沼では葦原を飛び交う多くのヨシゴイを観察し、又時折出現するサンカノゴイも期待できます。

交通 自家用車分乗です。一人 1,500 円を運転者にお渡し下さい。申込の際、自家用車提供可能な方はその旨をご連絡下さい。

持参 観察用具、雨具、弁当・飲物 (途中購入可)

申込 北原建郎まで
Tel : 04 - 7183 - 4683

担当 北原、小玉

【Enjoy 手賀沼 第 22 回バードウィーク手賀沼探鳥会】

5 月 10 日～16 日はバードウィークです。恒例の手賀沼探鳥会を実施します。我孫子市鳥の博物館と当会が共催するイベントで、同日、手賀沼親水広場で開催される「Enjoy 手賀沼！」(Enjoy 手賀沼実行委員会主催)に併せた行事です。探鳥会には 60 名以上の市民の参加が見込まれ、当会は探鳥会の実施面を担当するので、人手が必要になります。多数会員のお手伝いをお願いします。

なお、5 月の定例探鳥会はこのバードウィーク手賀沼探鳥会とします。

期 日 平成 23 年 5 月 8 日 (日) 雨天中止
集 合 手賀沼親水広場 芝生 午前 8 時 30 分
担 当 全幹事
案 内 6 班編成で、順次出発、ふれあい道路を東進し、高野山新田の信号の先で右折、遊歩道へ入り、滝下広場から遊歩道に戻るコースとします。班毎に鳥合わせして解散です。12 時終了の予定です。
雨天の場合は、我孫子市鳥の博物館見学会(入場無料)を行います。館内の案内、説明等を会員が手伝います。確認は 7 時 30 分以降「鳥博」(04-7185-2212)まで。

40周年記念誌（一般向）散歩コース観察会のご案内

各散歩コースと観察予定日時・集合場所等は次の通りです。
お近くにお住まいの方、鳥の好む「草木」に興味ある方、大歓迎です。
尚、観察予定日は天候等の事情で変更の場合がありますので、参加ご希望の方は下記世話役までご連絡ください。

	散歩観察コース	散歩観察日	集合時間	集合場所
G1	手賀沼公園～手賀大橋	5月7日（土）	14:00	アピスタ正面玄関前
	手賀大橋～滝下不動前	6月4日（土）	14:00	手賀大橋袂漁協前
	あけぼの山周辺	5月14日（土） 6月11日（土）	14:00	柏市農業公園の駐車場
G2	北柏ふるさと公園～トドリ橋	5月2日（月） 6月6日（月）	9:00	北柏ふるさと公園駐車場
	手賀の丘公園・染井入落			手賀丘公園どんぐりの家
G3	谷津田～五本松公園	6月16日（木）	9:00	成田線東我孫子駅前広場
	浅間橋周辺	5月19日（木）	9:00	浅間橋

6月の全体メンバー会議は6月12日（日）13:30～けやきプラザ10階A会議室にて開催する予定です。

世話役

G1 グループ 佐々木隆 電話 080 - 5507 - 5343

G2 グループ 野口隆也 電話 04 - 7163 - 7898、松下勝子 電話 04 - 7191 - 4438

G3 グループ 鈴木静治 電話 04 - 7169 - 4191

行事報告

2月手賀沼探鳥会

調査日時 2011.2.13 9:00～12:00

晴れ・弱風 気温 7

前日までの冷たい小雨がすっかり晴れ上がり、少し寒い気持の朝の集合でした。日の当たる公衆電話前で当日の案内をしていると、マヒワの小群が間近の木に止まり真黄色の姿を見せてくれました。幸先良いスタートでしたが、手賀沼ではやや風があり、水面に波が立ってカモの出が悪く、確認種類はこの時期の割には少ない探鳥会となりました。その中でも、マガモの数が比較的多かったようです。最後の鳥合わせでは、市役所の上空にオオタカが現れ、探鳥会を締めくってくれました。

<認めた鳥> カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、オナガガモ、ミコアイサ、ミサゴ、オオタカ、ノスリ、チュウヒ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、ヒクイナ、バン、オオバン、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、メジロ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、マヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 42 種 番外カワラバト

<探鳥班> 野口隆也、谷山晴男、南吉典、田中恒雄、北原建郎、染谷迪夫、鈴木静治、首藤佑吉、村瀬和則、宮下三禮、大矢篤、松田幸保、田丸喜昭、猪爪敏夫、栗田励、竹澤共

夫、竹澤美奈子、平野順乃、佐々木隆、中野久夫、吉田隆行、松本勝英、松本葉子、川村美智子、小坂忠久、小林孝夫、野口紀子、西嶋昭生、常盤孝義、小林博之、田中功、間野吉幸、河内悠太郎、小出夏妃、小出洋子、西城猛（担当）桑森亮 参加者 37 名

<カウント班> 木村稔、北原建郎、染谷迪夫
 調査日時 2011.2.14 8:30~12:00
 曇り 一時小雪 気温 14

調査種	上沼	下沼	合計
カツブリ	10	9	19
カムリカツブリ	9	13	22
カウ	17	2	19
ゴイギ	29	0	29
ダイギ	2	2	4
コギ	3	7	10
アギ	19	9	28
コバクショウ	18	6	24
マガモ	57	35	92
カガモ	68	38	106
コガモ	296	8	304
オヨシガモ	11	0	11
オカガモ	0	75	75
ミアイ	2	2	4
バン	7	0	7
オバン	50	33	83
タグリ	0	1	1
イソギ	1	0	1
タギ	1	0	1
ウリカモ	4	14	18
セウカモ	3	5	8
合計	607	259	866

3月手賀沼探鳥会

3月13日(日)予定の定例手賀沼探鳥会は3月11日発生した東日本大震災の被災状況に鑑みて中止しました。なお、カウントは行いました。

<カウント班> 田中功、北原建郎、染谷迪夫

調査日時 2011.3.13 9:30~12:00
 晴 9

調査種	上沼	下沼	合計
カツブリ	8	21	29
カムリカツブリ	4	17	21
カウ	11	25	36
ゴイギ	1	0	1
ダイギ	3	4	7
コギ	4	3	7
アギ	0	1	1
コバクショウ	16	6	22
マガモ	5	22	27
カガモ	35	24	59
コガモ	39	16	55
ヒトリガモ	2	0	2
オカガモ	3	19	22
ホシシロ	0	1	1
バン	1	1	2
オバン	39	28	67
イソギ	1	0	1
ウリカモ	3	28	31
セウカモ	2	1	3
合計	177	217	394

井頭公園探鳥会

2月6日

マヒワの美しい黄色に感激

畠中暁美

今回はバスでの探鳥会です。総勢 24 名。車中ではビンゴゲームをしたり、幹事さんのきめ細やかな企画があったりして、楽しく、あっという間に井頭公園に着いてしまいました。A班、B班に分かれてのバードソンのこと。私はいまだかつてこういうことには参加したことがないので不安でしたが、実力者が沢山いらっしゃるの鳥を見ることに専念です。この日の収穫はなんといってもミコアイサ(♂、♀) 30羽くらいのマヒワが杉の実を食べているところ、それにカケスを見られたこと。これらは私にとっては大感激！大収穫！ベテランの方々には笑われてしまいますが、未知の鳥が多いほど楽しみは

大きいなと自分を慰めています。写真もイマイチ、イマニですが、カメラマンになる訳でもないのでも、いくらかは上手になりたいものと密かに願っています。

マヒワはスコープで見せて頂いたので、それはそれは美しい黄色を良く見ることが出来ました。近所で見たことはありませんが、スコープの威力は絶大。何しろ井頭公園と井の頭公園の違いも分からない新参加者です。皆様にご教授を頂いてこんなに有難い会はありません。バードソンも幸いにも引き分けだったので担当幹事さんはほっとなさっていました。それにつけても担当して下さった猪爪さん、小林さん、そしてたくさんの知識を授けて下さった方々、本当に有難うございました。下見の時にはアオゲラ、ベニマシコも出たとか、それらは次回のお楽しみに取っておきたいと思います。

【幹事報告】

曇天無風の中、渋滞もなく 294 号線を北上し、野鳥ビンゴゲームをしながら、予定どおり、10:30 頃、目的地の井頭公園に到着しました。鳥見亭の 2F で常駐レンジャー（山中様）から、最新の鳥情報を聞き、予備知識をつめ込み AB の 2 班に分かれて、西コース（A 班 12 名）東コース（B 班 12 名）の構成のうえバードソン形式の探鳥会が始まりました。今年の特徴は、鳥の種類は、水鳥、里山の鳥とも揃っているが、数が少なく、またハクチョウが飛来しても、長居はなくすぐ飛び去ってしまうとのことでした。

14:30 をめどに各班とも探鳥が終了し、鳥あわせをした結果は、以下のとおりで、バードソンは同数引き分けでした。

< 認めた鳥 >

AB 班共通で認めた鳥：カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ミコアイサ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、ホオジロ、アオジ、マヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 36 種
A 班のみ認めた鳥：オオタカ、オオバン、アオゲラ、ヒレンジャク、ウグイス、コガラ、

メジロ 7 種

B 班のみ認めた鳥：カンムリカイツブリ、アオゲラ、ヤマシギ、ピンズイ、ミソサザイ、アカハラ、ヒガラ 7 種

したがって、AB 班を合わせ認めた種類数は 50 種でした。A 班：43 種、B 班：43 種

< 参加者 > 染谷迪夫、金子幸子、川越久枝、鈴木静治、宮下三禮、野口紀子、野口紀恵、谷山晴男、天野正臣、天野睦子、田中功、間野吉幸、吉田隆行、松本勝英、松本葉子、井上正、桑森亮、大久保陸夫、松下勝子、山田哲生、畠中暁美、中根文世（担当幹事）猪爪敏夫、小林寿美子 参加者 24 名

福島小鳥の森探鳥会

2月26日,27日

驚きました！70種

鈴木幸子

探鳥歴の浅い私が、遠出の探鳥会に参加させて頂き、その感想文まで書くことになりました。思いつくままに記してみます。

出発日の朝未明まで、強風が吹き荒れていました。「これでは鳥は出ないかな？」と心配をしましたが、出発時刻になると、風も収まり、暖かな天候に恵まれました。

午前7時出発、総勢16名。一路、常磐道から磐越道に入り、郡山へ。バスの車窓から雪を冠した山が見えてきました。最初の探鳥地の二本松市も間近か。二本松市は豊かな自然に囲まれた城下町で安達太良山が雪に覆われています。二本松市の霞ヶ城址で探鳥開始。

余談ですが、会津の白虎隊の話は有名ですが、ここ二本松市にも少年隊（12～17歳）の悲話がありますが、それほど有名ではありません。彼らの墓は城の近くの寺で静かに眠っています。

さて、鳥の方はといえば、ミヤマホオジロが最初に出現。カシラダカかな？と思いましたがよく見ると、眉斑と喉が鮮やかな黄色です。やはりミヤマホオジロでした。幸先良い予感です。「あの木に入った！」「どこ？」「あー、飛んだ！」などと賑やかだ。普段は薄暗い所にいるトラツグミが「どうぞ写真を

撮って下さい」とばかりに、日向に出てくる。桜の木の梢では、ウソの雄 1 羽、雌 3 羽がいます。雄の頬と喉の朱色が綺麗です。上空ではノスリが舞っています。ホバリングの姿はいつ見ても優雅です。

続いて福島市小鳥の森へ移動。そこでは餌付け途中？のルリビタキの雄、ウソ、マヒワ、シメ等。近くの阿武隈川岸では、オオハクチョウ、コハクチョウ、ホオジロガモの雌、等多種のカモを観察。

16 時、旅館に着く。昭和の雰囲気を残す宿*でした。夕食・懇親会では、今日の成果と明日への期待で話が尽きません。

翌朝 6 時に早朝探鳥会で再び福島市小鳥の森へ。アカゲラ、アオゲラを見る。久しぶりの対面です。頭の赤が綺麗だ。シメが鈴なりに止まっている。朝食後、帰路はいわき海岸を目指し、海鳥を見る予定だ。榎葉町・天神岬スポーツ公園に着く。ピンズイのお出迎え。切り立った崖から海を覗くとクロガモの大群、風に乗ってクロガモの雄の「ピーフィッ」と哀調のある鳴き声が聞こえてくる。印象的だった。ジョウビタキが見送ってくれた。

久之浜漁港では、ヒメウ、カンムリカイツブリ等。四倉漁港ではシノリガモ雄 3 羽が目の前で行儀よく泳いでいる。脇の赤栗色に線状の白斑が可愛い。最後の探鳥地、塩屋埼海岸・小名浜港では、洋上に雄雌仲良く泳いでいるウミアイサを見ることが出来ました。

帰路、バスの車中で鳥合わせを行う。ナント！72 種。驚異的数字だ。山と海の両方、皆の熱意の結果の数字だ。

たいした渋滞にも会わず、ほぼ予定通り 19 時 15 分に我孫子到着。解散となりました。

幹事の皆さんから、スコープを覗かせて貰ったり、お話を伺ったりとても楽しい探鳥会でした。有難う御座います。

*この旅館は本年 4 月閉店予定

【幹事報告】

当初、計画しました福島市小鳥の森、阿武隈川親水公園は予定どおり探鳥しましたが、計画後鳥の情報が入りましたので、二本松市・霞ヶ城公園を追加しました。また下見でいわき海岸に水鳥が多いことがわかりましたので、榎葉町・天神岬スポーツ公園、久ノ浜漁港、四倉漁港、塩屋埼灯台周辺の海岸、小名浜港で探鳥しました。

< 認めた鳥 > カイツブリ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ウミウ、ヒメウ、ダイサギ、アオサギ、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、クロガモ、シノリガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、トビ、オオタカ、ノスリ、クマタカ SP、ハヤブサ、チョウゲンボウ、キジ、オオバン、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、キジバト、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタキ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、トラツグミ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、カワラヒワ、マヒワ、ウソ、イカル、シメ、スズメ、ムクドリ、カケス、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 70 種
番外：コジュケイ、カワラバト

< 参加者 > 天野正臣、天野睦子、猪爪敏夫、大久保陸夫、金子雅幸、桑森亮、鈴木裕爾、鈴木幸子、染谷迪夫、田中功、田中恒雄、中根忠、松本勝英、山住良子（幹事）六角昭男、鈴木静治 参加者 16 名

北本自然公園探鳥会

3 月 20 日

3 月 20 日（日）実施予定の「北本自然観察公園探鳥会」は東日本大震災の影響により中止と決定しました。参加を楽しみにされていた 19 名の方々には大変残念なことでしたが、次回の計画時にぜひともご参加頂きたいと思えます。 担当：野口（隆）、松田

市民手賀沼探鳥会

1 月 30 日

実施日：1 月 30 日（日）9：00～12：00

天 候：晴、開始時は風が強く寒かった。

場 所：手賀沼遊歩道

この探鳥会は一般市民を対象にした我孫

子市環境レンジャーと当会共催の探鳥会で、探鳥の楽しさや野鳥への理解を深めて頂くことを目的に毎年開催しています。今年は昨年より多い参加者を5班(一斑7~8人)に分け、当会会員と環境レンジャーが観察した野鳥の種名の紹介や見分け方、雌雄の区別、鳴き声の聞き分け等参加者にきめ細かく対応しました。一般の参加者からは、野鳥の見分け方、野鳥の特徴が分かり良かったとの声を沢山頂きました。同時に野鳥ビンゴを行い、ビンゴになった人に野鳥カードをプレゼントしました。これは大変好評でした。

<認めた野鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ミコアイサ、ミサゴ、チュウヒ、バン、オオバン、イソシギ、タシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、アカハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオ

ジ、オオジュリン、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計43種

番外 バリケン、カワラバト

参加者：一般市民36名、レンジャー17名、
当会会員10名 参加者63名

5月幹事会案内

日時 5月8日(日) 13:30~17:30
場所 こもれび 調理室
議題 23年度下期行事予定
会報221号の記載記事について
報告事項
その他(議題のある場合は事務局まで連絡ください。)

鳥 だ よ り

- | | |
|--|---|
| 01.21 [江蔵地] ㄆㄣㄎㄨㄥˊ ㄆㄨㄛˊ (1) 河原を低空で飛ぶ
鈴木静治 | 飯泉仁・飯泉久美子 |
| 01.21 [北新田] ㄆㄧˊ (1) 飛翔
中野久夫 | 01.22 [片山] ㄖㄨㄛˊ(8) 11:35、鳴きながら木の枝に飛来
飯泉仁・飯泉久美子 |
| 01.21 [北新田] ㄆㄨㄛˊ(1) 河川敷柳上
中野久夫 | 01.22 [片山] ㄎㄨㄛˊ (6) 11:50、斜面林の中から出現し、地面で採餌
飯泉仁・飯泉久美子 |
| 01.21 [江蔵地] ㄆㄧˊ (2) 上空を鳴きながら飛ぶ
鈴木静治 | 01.22 [片山新田先手賀沼] ㄇㄞㄚㄎㄚ(1) 13:32~15:16、葦原に出現
飯泉仁・飯泉久美子 |
| 01.21 [江蔵地] ㄆㄨㄛˊ(1) 河原・田を低空飛翔
鈴木静治 | 01.22 [片山新田先手賀沼] ㄆㄨㄛˊ(1) 15:16、市道脇の屋敷林の林縁に止まっていた
飯泉仁・飯泉久美子 |
| 01.21 [江蔵地] ㄆㄨㄛˊ(1) 上空高く飛ぶ
鈴木静治 | 01.22 [片山新田先手賀沼] ㄆㄧˊㄆㄨㄛˊ(1) 13:32、鳴きながら葦原を移動
飯泉仁・飯泉久美子 |
| 01.21 [相島新田] ㄆㄨㄛˊ(1) 高圧塔中腹にとまる
鈴木静治 | 01.22 [岡発戸] ㄆㄨㄛˊ(1) 飛翔
平岡考 |
| 01.21 [発作] ㄆㄧˊ (2) 川の上空高く飛ぶ
鈴木静治 | 01.22 [岡発戸] ㄆㄧˊㄆㄨㄛˊ(1) 鳴き声
平岡考 |
| 01.22 [片山] ㄇㄞㄚㄎㄚ(1) 11:19、ㄆㄨㄛˊㄆㄨㄛˊㄎㄚに追尾されながら移動 | 01.27 [藤ヶ谷新田] ㄆㄨㄛˊ(1) 11:22、国道16 |

- 号線上空をカラスに追尾されて旋回
飯泉仁・飯泉久美子
- 01.27 [布佐平和台] ヒ (1) 上空を輪を描き飛ぶ 鈴木静治
- 01.27 [北新田] ヒ (1) 飛翔 中野久夫
- 01.27 [北新田] ノリ(1) 電柱から飛去 中野久夫
- 01.27 [浅間前] ノリ(1) 電柱の上、杭にとまり、飛ぶ 鈴木静治
- 01.27 [千間橋] ヲウゲノボウ(1) 田の上を低空で飛ぶ 鈴木静治
- 01.28 [下沼田] ノリ(1) 高压塔下部にとまる 鈴木静治
- 01.29 [東中新宿] ヲウゲノボウ(1) 12:25、隣の家のテレビアンテナに止まって周囲を警戒 飯泉久美子
- 01.31 [高野山新田] マワ(3) 12:35、東方向から出現しノリに渡来 飯泉仁・飯泉久美子
- 01.31 [酒井根 6 丁目 下田の森] マワ(6) 9:39、鳴きながら東方向から飛来 飯泉仁
- 01.31 [酒井根 6 丁目 下田の森] マワ(6) 10:28、東方向から出現し西方向に渡去 飯泉仁
- 01.31 [柏市南部の谷地] マワ(1) 北側の斜面林に出現、地表で餌を物色 飯泉仁
- 01.31 [片山] ノリ(1) 13:48、ノボウカラスに追尾され上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 01.31 [片山] マワ(3) 13:48、鳴きながら飛来 飯泉仁・飯泉久美子
- 01.31 [片山] ヒ (1) 14:10、上空を鳴きながら旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 01.31 [片山] マワ(1) 14:14、南側上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 01.31 [片山] ヒ (1) 14:15、上空を鳴きながら旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 02.04 [手賀新田] ハニマシコ(1) 堤防の葦の繁みで草の実を食べる 鈴木静治
- 02.04 [下沼田] ノリ(1) 高压塔下部より田へ飛び立つ 鈴木静治
- 02.04 [浅間前] ヲウゲノボウ(1) 電柱上より飛び立つ 鈴木静治
- 02.04 [千間橋] ヒ (1) 上空を輪を描き飛ぶ 鈴木静治
- 02.10 [下沼田] ノリ(1) 田の杭より飛び立つ 鈴木静治
- 02.10 [上沼田] ノリ(1) 電柱上にとまるもカラスに絡まれる 鈴木静治
- 02.10 [浅間前] ヲウゲノボウ(1) 電柱上より飛び立つ 鈴木静治
- 02.12 [北新田] コハチヨウ(9) 群れて南西へ飛翔 中野久夫
- 02.13 [布施 あげぼの山] カガムシクイ(1) 樹上を採餌移動 中野久夫
- 02.14 [光ヶ丘] マワ(31) 10:55 ~ 11:10、カスバリの種を食べに飛来 飯泉仁
- 02.14 [光ヶ丘] マワ(6) 13:35、カスバリの種子に食べていた 飯泉仁・飯泉久美子
- 02.14 [手賀沼] ミカ(2) 上沼 1、下沼 1 染谷迪夫・木村稔・北原建郎
- 02.14 [手賀沼辺] ノリ(2) 上沼 2 染谷迪夫・木村稔・北原建郎
- 02.14 [北新田] ノリ(1) 杭上から飛去 中野久夫
- 02.15 [布施] マワ(2) 電話のアンテナ塔上 中野久夫
- 02.15 [布佐下新田] ヲウゲノボウ(1) 屋根上を飛びアンテナにとまる 鈴木静治
- 02.15 [布施 あげぼの山] カガムシクイ(1) 樹上を採餌移動 中野久夫
- 02.17 [北新田] マワ(1) 電柱から飛去 中野久夫
- 02.19 [北新田] ヒ (1) 飛翔 中野久夫
- 02.19 [北新田] ノリ(1) 電柱から飛去 中野久夫
- 02.19 [北新田] ヲウゲノボウ(2) 電柱上 中野久夫
- 02.21 [北新田] ヒ (2) 飛翔 中野久夫
- 02.21 [北新田] マワ(1) 越流堤横柳上 中野久夫
- 02.24 [下沼田] ノリ(1) 田の電柱上にとまる 鈴木静治
- 02.24 [発作] ハニマシコ(1) 葦・セウカワガチワの繁み、灌木の枝で鳴く 鈴木静治
- 02.25 [北新田] コハチヨウ(19) 耕田で採餌 中野久夫
- 02.26 [北新田] コハチヨウ(19) 12:49、水田の土をほじくり、二番穂を食べていた 飯泉仁・飯泉久美子
- 02.26 [北新田] コハチヨウ(19) 15:54 ~ 16:00、二番穂を食べていた

- 飯泉仁・飯泉久美子
02.26 [大井新田先手賀沼] ミコ(1) 10:51、上空を旋回し、その後沼の中の魚を採餌
飯泉仁・飯泉久美子
02.26 [片山新田先手賀沼] ミコ(1) 11:58、水面の杭に止まり、魚を食べていた
飯泉仁・飯泉久美子
02.26 [箕輪新田先手賀沼] ハニシコ(2) 11:08、葦原の茎の中の虫を採餌
飯泉仁・飯泉久美子
02.26 [北新田] コハチヨウ(19) 耕田で休息
中野久夫
02.26 [布施あけぼの山公園] カガムシクイ(1) 13:12 ~ 15:00、公園内を鳴きながら移動
飯泉仁・飯泉久美子
02.26 [湖北台中里] ウグイス(1) ウグイスの正調を聞きました。 松本勝英
02.27 [東中新宿4丁目] 材カ(1) 16:10、集合住宅上空を東から西方向に移動
飯泉仁・飯泉久美子
02.27 [利根運河沿い] マリ 多数 地上に降りて、採餌 松田幸保
02.27 [房総風土記の丘] マリ(30) 地上に降りて、採餌 田丸喜昭・メリールイス
02.27 [房総風土記の丘] ウグイス 複数
ウグイスの初鳴き。
田丸喜昭・メリールイス
03.01 [北新田] ヒ(1) 物色飛翔
中野久夫
03.01 [北新田] ノリ(1) 電柱から飛去
中野久夫
03.01 [北新田] ヲウケンホウ(2) 飛翔
中野久夫
03.01 [浅間前] フル(1) 田の上を低空飛翔し、杭にとまる 鈴木静治
03.02 [下沼田] ヲウケンホウ(1) 田の上、上空を飛ぶ 鈴木静治
03.02 [新木] ヒ(1) 住宅上を輪を描き飛ぶ 鈴木静治
03.02 [中沼田] ヒ(1) 田の上、上空を飛ぶ 鈴木静治
03.02 [中沼田] ノリ(1) 人が通ると田の杭から飛び去る 鈴木静治
03.02 [北新田] ウグイス(2) 越流堤横葦原で囀り 中野久夫
03.06 [光ヶ丘4丁目] マリ(10) 10:51、樺の木に集まって鳴いていた
飯泉仁・飯泉久美子
03.06 [岡発戸谷津] 材カ(1) 上空飛翔
桑森亮
03.06 [岡発戸谷津] ヲウケンホウ(1) 上空飛翔
桑森亮
03.06 [岡発戸谷津] マリ(5) 樹上で
桑森亮
03.06 [千間橋] ヲウケンホウ(1) 田の上を低空飛翔後、杭にとまる 鈴木静治
03.08 [江蔵地] ヒ(1) 田より飛び堤防の通樋の鉄柵にとまる 鈴木静治
03.10 [下沼田] ヲウケンホウ(1) 停飛しながら田の上を飛ぶ 鈴木静治
03.10 [水道橋] ノリ(1) 田の畔で獲物をたべる 鈴木静治
03.10 [水道橋] ヲウケンホウ(1) ノリに絡み、飛び去る 鈴木静治
03.11 [都部] ハニシコ(1) 葦原の中を飛ぶ
鈴木静治
03.11 [千間橋] ヒ(1) 鳴き声が聞こえる
鈴木静治
03.12 [新木] ハヤブサ(1) 住宅上空を停飛しながら飛ぶ 鈴木静治
03.13 [北新田] ノリ(1) 電柱から飛立ち
中野久夫
03.13 [下沼田] ヲウケンホウ(1) 田の杭にとまる 鈴木静治
03.13 [下沼田] ノリ(1) 上空を飛ぶ
鈴木静治
03.13 [上沼田] ヲウケンホウ(1) 電柱上にとまる 鈴木静治
03.16 [北新田] ヒ(1) 帆翔 中野久夫
03.16 [北新田] ノリ(1) 杭から飛去
中野久夫
03.16 [北新田] ヲウケンホウ(1) ホバリング
中野久夫
03.16 [北新田] カサネ(2) 4号排水路で採餌
中野久夫
03.20 [片山] ヤマガラ(1) 14:51、鳴きながら池に飛来 飯泉仁・飯泉久美子
03.20 [片山] マリ(6) 15:02、鳴きながら池に飛来 飯泉仁・飯泉久美子
03.20 [片山] ヤマガラ(1) 15:11、鳴きながら移動 飯泉仁・飯泉久美子
03.20 [箕輪新田先手賀沼] フル(1) 13:06、東方向から出現し、上空を旋回し葦原の

中に降り立った 飯泉仁・飯泉久美子
03.20 [岡発戸谷津] ビ (1) 上空飛翔
桑森亮

今回寄せられた鳥の全種名

<山野の鳥>

アオジ、アカハラ、ウグイス、エナガ、オオタカ、オナガ、カケス、カシラダカ、カラフトムシクイ、カワラヒワ、キジ、キジバト、キセキレイ、クロジ、コイカル、コゲラ、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ、シロハラ、スズメ、セグロセキレイ、セツカ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツミ、トビ、ノスリ、ハイタカ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒガラ、ヒバリ、ヒヨドリ、フクロウ、ベニマシコ、ホオアカ、ホオジロ、マヒワ、ミヤマガラス、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ヤマシギ、ルリビタキ 計 46 種

<水辺の鳥>

アオサギ、イソシギ、オオジュリン、オオバン、オカヨシガモ、オナガガモ、カイツブリ、カルガモ、カウウ、カワセミ、カンムリカイツブリ、キンクロハジロ、クサシギ、ケリ、ゴイサギ、コガモ、コサギ、コチドリ、コハクチョウ、コブハクチョウ、セグロカモメ、ダイサギ、タゲリ、タシギ、

タヒバリ、チュウヒ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハヤブサ、バン、ヒドリガモ、ホシハジロ、マガモ、ミコアイサ、ミサゴ、ユリカモメ 計 36 種

合計 82 種

今回の投稿者の総投稿件数

飯泉久美子	2
飯泉仁	356
飯泉仁・飯泉久美子	253
桑森亮	8
鈴木静治	84
鈴木静治・猪爪敏夫	
・谷山晴男・間野吉幸	46
染谷迪夫・北原建郎・田中功	29
染谷迪夫・木村稔・北原建郎	34
田中功他	1
田丸喜昭・メリールイス	2
中野久夫	61
松田幸保	1
松本勝英	1
平岡考	5
総計	883

(浅井久)

2010年11月ハンガリーで鳥を追う(2)

田丸嘉昭

11月5日

午前6時朝食と、7時出発は同じ。この日は、この地で有名なノガン GREAT BUSTARD を見に行く。日本語ではガンだが、ガンカモ目とは別の独立した分類に入る。L♂90-105cm ♀75-85cm。WS♂210-240cm、♀170-190cm。大型で重量があり、平原や草原などの地上に群れて住む留鳥(飛ぶことはできる)。(帰国してから驚いたのは、この鳥が日本の野鳥図鑑にのっていたことだ)。生息数は減少傾向にあり、ハンガリーでは保護鳥とされている。小さな町で、現地のこの鳥の保護を担当していると思われる案内人を乗せて、近くの草原に着く。ノガンを探して、バスを降り2kmほど草原の悪路を歩くとのことで、小鳥たちを眺めながら南へ進み、道はずれて、途中の林の中に立つ小さな展望台からノガンを探すが見当たらない。この辺には、カササギやカケスが飛んでいた。落葉した木の上には、カササギの大きな巣が残されていた。草原といっても、水はけが悪く、かたまつた草の根や、水溜り、鹿やウサギの糞が多く、重いカメラと三脚を担いで歩くのは容易ではない。ノガンが見当たらないので、回り込むように北に向けて帰路を半分ほど戻りかけたところに、最後尾にいた日本から同行したリーダーがノガンを発見し、一同、また南の方向に戻り、ノガンの姿を見る。

草原の低い部分に群れているので、草などで頭の部分しか見えない。なおも近づいていくと、まだ距離はかなり離れているのに一斉に飛び立ってしまった。20 数羽だ。彼らは、さらに南の方向の 1-2 km 先に降り立ったので、私たちも、それを追うことになった。防寒着を着て、重い機材を担ぎ、太陽が照り付ける中を歩き続けたので、大汗をかく。途中で、何回か止まり、観察を続けながら、鳥たちにかなり近づいた。鳥までの距離はまだ 1 km ほどあるが、今度は、やや高くなった場所にいたので、よく観察できた。

この鳥は、留鳥だが、厳冬の年には、イタリアに寒を避けて渡るそうで、イタリア側の狩猟者がそれを待ち構えて鉄砲で獲るのが生息数の減少の大きな原因だそうだ。最初の予定の距離をはるかに上回り、数キロメートルは重い機材を担いで歩いたことになる。この国の田舎の家々は、全体に比較的小さく、スレート葺き屋根に 1-2 本の煙突が出ている。何軒かの家は茅葺屋根で、養豚舎も茅葺の屋根が多かった。

この日の昼食は、ガイドが用意していたピクニックランチを国立公園の屋根がある休息場所とする。ところが、トイレには鍵がかけられて使用できず、必要な人たちは「野放し」ということになった。

帰路は何箇所かの草原や沼などに立ち寄り観察を続ける。夕刻近くに、国道からあまり離れていない沼に、宿営地に向かうガンたちが、途中で休息のため集まる沼に立ち寄り、2000 羽ほどのマガンを主とし、ヒシクイ、アオガン、ツクシガモなどがいて、日没前から、群れを作って宿営地に向かい飛び立っていった。先に進んで行くと夕刻の空には、数多くのクロツルの群れが宿営地を目指して飛んでいく。宿に近くなった鉄塔が並ぶ場所で、セーカーハヤブサを探し、一羽が鉄塔にとまり、その後飛び立つのを目撃した。

11月6日

第二の宿泊地への移動日。自分たちの飲んだ酒代や洗濯代をクレジットカードで支払う。約 3550 フォリント（ハンガリーの通貨）だったから約 9000 円ほどだろう。朝食後、荷物を牽引車に積み込み、出発。

ホートバイ国立公園南部の草原で、ノガンを探すことになる。ほどなく、20 数羽のノガンたちの群れを発見し、草原や、家畜飼料のペールの上にとまるハタオリドリ **CORN BUNTING** などの小鳥たちやハイイロチュウヒ **HENHARRIER**、ノスリ **COMMON BUZZARD** などを観察しながら、群れに近づいていった。この日のほうが、順光の見やすい位置にいたので写真を撮る。前日行った場所とは距離的に近いが、別の群だそうで、この地域に生息するノガンの生息総数が 150 羽前後だそうなので、私たちは、この二日間で、その三分の一を観察したことになる。

その後、前日行った国立公園で昼食をとった場所の奥の方の湖に水鳥を探しに行く。ここでは、コビトウ **PYGMY CORMORANT** を見る。名前のとおり、かなり小さい。一人で歩いていると、葦原の中から声が聞こえたので、近づいてみると三羽のゴシキヒワ **GOLDFINCH** だった。

近くの町のレストランで昼食。ハンガリーでは、鉄なべに入ったスープが食前に必ず出されるようだ。デザートには、果物がクレープに包まれたものの上に、やや甘いソースがかけられたものが出される。この国は、平原は牧草地が多く、落葉樹木が点在しているが、街の中には比較的高木が集まっているので、街中のほうが鳥たちの住みやすい場所となっているらしい。昼食の後、住宅地の木を渡り歩くカオジロアカゲラ **SYRIAN WOODPECKER** を発見。4 日に行った湖に再びアオガンを探しに行く。バスを降りたとたんに、眼前をセーカーハヤブサが飛ぶ。湖面には大きな変化はなく、アオサギ **GREY HERON** の数が多い。

この日の宿泊地は、スロバキアとの国境に近い、100 キロ北のコムロスカ（*）という田舎の集落にあるソリヨムヴァール（*：発音は私流）というペンション。草原の田舎道を通り続けるが、広い草原には、ほとんど放牧されている動物を見かけない。ほんのわずかにいるのは、山羊で、所々に馬がいた。小型な牛は 2-3 箇所で見かけなかった。我々が走っ

た経路沿いでは、工場らしい建物を見かけなかった。この日の経路では、一ヶ所で、この国としてはやや大きな工場を見かけた。製紙工場だろうか。夕闇が迫る時刻になると、周囲に山とは呼べない大きめな丘が並んで見えるようになる。途中で、道路が 100m幅の川で分断され、そこは、車二台を乗せる渡し舟が運行されている。兩岸から鉄のロープが張られているので、船は、これを手繰るようにして運航されているのだろう。乗客は、安全のために車から降りて甲板部分に立っていなければならない。私たちの乗った船が、今日の最終便だったようだ。まもなくトーカイ TOKAJ の町に入る。道路標識からすると、トーカイは町の名であるとともに、トーカイ地方と呼ばれるように、この一帯の郡のような地域の名前でもあるらしい。この地域は、ハンガリーでも著名な琥珀色の貴腐ワイン(世界にその名を知られる)の産地である。細い山道を登って宿に着いた。

コムロスカ盆地は、海拔 220-300mにあり、周囲を数々の丘陵地帯がかこんでいる。近くの丘の上に、14 世紀に建築され現在は廃墟となっている城跡がある。当時のこの地域は、小さいながらも一国をなして、その伝統が今に引き継がれている。我々が夕食に食堂に向いたとき、地域の古代ヨーロッパ風な黒い衣装の正装をまとった 10 数人の人たちが退席するときで、地域の政治集会とみた。

この国の夕食には、一杯の白ワインが提供され、代金は滞在費に含まれているが、二杯目以降あるいはビール、その他などの注文は追加料金を払わなければならない。私は、ML の分の白ワインや追加の白や赤ワインを大いに楽しんだ。この宿は、比較的新しく、快適だった。

夜食の後に、宿の若い主人(この地区の政治的指導者で、自分でワインの醸造もしている)が、旅の参加者に、自分の醸造する 6 種類の白ワインの詳しい説明付きの試飲会をしてくれた。これが終わり、気分が高揚した数人が一階のロビーで、私の飲み残していた免税のウィルドターキーウイスキーを飲みながら歓談した。ワインの産地といっても、大きな醸造所らしいものは見かけず、個人所有の小さい醸造所で作られるらしく、ワインは各自が丘に掘った地下トンネルで熟成されるらしい。

11月7日

午前 6 時の暗いうちから宿の周囲の早朝探鳥会に出る。暗いので、姿からは種の判別は難しく、声にも慣れていないので、これによる判別も難しい。

朝食の後、近隣の国立公園内での保護や指導をしていると思われる現地の案内人が加わり、この日の活動開始。前日は暗くて周囲が見渡せなかったが、この丘陵地帯の裾野の斜面にブドウ畑が広がっているのを見る。日本のように、ぶどう棚形式でなく、高さが 1.5mほどの立ち木の状態でぶどうの蔓は延びていない。ワイン醸造のためのぶどう収穫に適しているスタイルだろう。ブドウ畑で周辺の小鳥を探す。

近くの丘の森の中のかなり急な道を登り、高木の林の中でキツツキ類を探す。ここで現れたのが、ヤマゲラ GREY-HEADED WOODPECKER、ヨーロッパアオゲラ GREEN WOODPECKER、クマゲラ BLACK WOODPECKER、アカゲラ GREAT SPOTTED WOODPECKER、カオジロアカゲラ SYRIAN WOODPECKER、ヒメアカゲラ MIDDLE SPOTTED WOODPECKER、オオアカゲラ WHITE-BACKED WOODPECKER、コアカゲラ LESSER SPOTTED WOODPECKER などで、オオアカゲラは周囲を飛び回っていたので、よく観察できた。クマゲラは、頭上を飛びすぎ、やや遠くで連続して鳴いていた。林の中の藪を掻き分け山を下りながら、現地案内人が、木の幹の下部を石でこすり、巣穴の中のモリフクロウ TAWNY OWL を飛び立たせようとしたが、不在の様子。もう一本の木でも同じく。

国道 37 号線を南西に走り、セレンクス SZERENCs(＊)の街を過ぎた牧草地でカタジロワシ IMPERIAL EAGLE L70-83cm WS175-205cm を探す。ハイイロチュウヒ HEN HARRIER、ハイタカ SPARROWHAWK、ノスリ COMMON BUZZARD は現れたが、ご本

尊は姿を見せない。バスでしばらく走り、方向転換した直ぐ後に、二個体の**カタジロウシ**が飛んでくれた。**コウノトリ WHITE STORK**は、この周辺で夏季に家の屋根、教会の塔、電信柱などの上に木の枝で大きな巣を作り繁殖するが、夏の終わりにアフリカ方面へ渡っていく。それらの残された大きな巣が散見される。トーカイの町に戻り昼食。その後、近くの川の傍に立つ高木で移動するキツツキ類を観察。

今度は、ブドウ畑の奥の丘にある崖に**ワシミミズク EAGLE OWL L59-73cm WS138-170cm**を探しに行く。最初の崖には不在。現地案内人が、ぶどうの枝に残る干しぶどうのようなぶどうを採ってきて皆に配った。これが貴腐ワインの原料となるぶどうだ。第二の崖にも不在。第三番目の崖は、この周辺でももっとも広く、近年フランスのワイン醸造会社を買収されたぶどう園の奥にあり、我々のバスの入園許可をもらい、門の鍵を開けてもらってブドウ畑の中の道を登る。ぶどうの収穫時期は終わっているようだが、まだ手を伸ばせば、干しぶどうがとれるので、私たちは、ぶどう棚に手を伸ばして少しずつとり、口にしました。第三の崖も、二つの方向から目視した限りでは見当たらずに、夕刻の暗闇の迫るのを、ぶどう収穫倉庫周辺で待つ。ガイドのゾーリー君が、録音されたワシミミズクの声を出して再生し続ける。それに応えたかどうかわからないが、暗闇が迫る時間になると、斜め左方向の山から、**ウーッホー**という声が聞こえ始める。その声は、私の感覚では、7秒ごとに一回で続いた。やがて、右の峰の方角からも、似た声が聞こえ始めた。姿は見えなかったが、二個体がいたことだけは確認できた。

水はけの悪い平地はブドウ栽培には適してはず、山裾の斜面にのみにブドウ畑が広がっている。水はけが重要なのだろう。ブドウ畑の中には、採果用の3m幅ほどの通路が走っていて、コンクリートで舗装された道の中央部がV字になっている。聞いてみると、降雨時に土砂が流れないようにする工夫だそうで、ブドウ栽培には、土砂の確保が重要なポイントになっているようだ。

11月8日

朝食後、私の個人支払い分をユーロで支払い、出発。この日は、ブダペスト市内を通過するのに、バスの荷物用牽引車を引いては通れないために、バスが牽引車を引かないものと交代される。

山の斜面の牧草地で、電線や草原の柵に群れる**ノハラツグミ FIELDFARE**、**オオモズ GREAT GREY SHRIKE**や他の小鳥を観察。近くの開けた森を下りながら、**ズアオアトリ CHAFFINCH**、**アオカワラヒワ GREENFINCH**、**キアオジ YELLOWHAMMER**などを観察しながら、**モリフクロウ**の巣がある木に到達し、ゾーリー君が木の下部を石でこすっても不在だった。

先へ進んで、谷間の急な林の斜面を登る。目指すは再々度の**モリフクロウ**。今度は、留守でなかった。ゾーリー君が木の下をこすると、薄茶色のフクロウが巣穴から顔を出し、巣穴から水平方向に飛び立ち、斜面の下の木の高い部分にとまった。斜面を急いで下りて、近くの木の下から見上げるようにしてよく観察できた。ゾーリー君に、日本語では、この鳥は森フクロウというといったら、ハンガリー語では、**キューック**という猫のように鳴くから猫フクロウというといった。先に進み、平地に出て、丘の上で廃墟になっている城跡に行く。城壁は、石材でなく、10cmほどの大きさのどこにでもある石を土で固めて積みあげた古風なものだった。雨の降る城の周辺を巡り、バスのなかで弁当を食べる。

この後、約220km西方向のブダペストを目指して高速道路を走る。ペスト側の市の中心部の英雄広場を眺め、ビジネス街を抜け、ドナウ川に架かる鎖橋を渡り、ブダ側の丘の上の漁夫の砦からペスト側の夜景を楽しむ。**WC**の表示があったので、そこへ行くと、有料トイレで50セント(ユーロ)を支払わされた。近くのレストランで、飼育されたガンの肉料理の夕食を取り、さらに65km西の今夜の宿泊地タタへ向かう。宿は、小さい湖のそばのカサブランカペンション。夜、この宿の主人かと思った男(実際は翌朝のガンを見る現地の案内

人)とゾーリー君と三人で、旅の最後の夜を祝って何杯か飲んだ。

11月9日

朝6時に庭に集まり、目の前の湖畔を歩く。まだ暗い水面には多数のガンたちが浮かび、大きな声をだしている。ガンたちは、まだ暗い5時45分ごろから100 - 200羽ずつの群れで飛び立ち始める。暗い中での飛ぶ鳥たちの写真は上手くは撮れていなかった。宿近くの水溜りでクロウタドリ♀BLACKBIRDが羽づくろいをしていた。

この日、ウイーン空港出発が13時15分なので、11時過ぎまでに空港に到着しなければならないので、大急ぎで出発した。

11月10日

午前8時過ぎに成田空港に到着。解散。

旧共産圏の国ということで、多少の疑念を持って出かけたが、人々は穏やかで友好的で、滞在中、人々から悪意のある眼差しや、危険を感じるような事態には一度も遭遇しない快適な旅だったことを付記する。

会 員 便 り (ab-yachoより)

【北新田】

- ・ユリカモメは4号排水路上を飛翔し、ときどき降りて餌探しをしてました。
- ・最近ヒバリとホオジロの囀りがよく聞かれるようになりました。

(2011.02.17 中野久夫)

【ノウサギ】

雪の降った2/15(火)の朝、通勤途上に、我孫子市役所の裏手でノウサギの足跡を見つけました。我孫子市役所のすぐ裏手、最近駐車場になったところと、最近まで発掘をしていたところの間くらいです。我孫子ではたしか我孫子野鳥を守る会の方が北新田で撮影されたノウサギの画像を拝見したような記憶がありますが、市役所の裏にも出没しているのは初めて知りましたので驚きました。

ちなみに、ご承知のとおり、ノウサギの走り方は、人間が跳び箱を跳ぶような感じで、まずついた前足(人間の手)を追い越すように後ろ足が前に出て地面につきます。跳び箱と違うところは、前足を左右揃えず、前後にずらして進行方向に沿った一直線上につくところ。それで進行方向前側に左右に並んだ後足の跡、その後ろ側に進行方向に沿った直線上に前足の跡がつづく形になります。(2011.02.17 平岡考)

【風土記の丘】

好天の今日27日、メリールイスと房総風土記の丘へ出かけてきました。9時過ぎに、資料館の裏手あたりで、コジュケイの鳴き声の前奏曲と思われた「チョッチョッチョ」との声を聞きましたが、かぼそい声でした。しばらくすると、「ケキョケキョ」と聞こえてくるようになりました。やはりウグイスでした。やや進んだところの藪から、弱い声ながら、ホーホケキョとの完成した声が聞こえました。気温が上がってきた午前10時過ぎの印旛沼が右手に見える斜面のあちこちからは、元気な正調ホーホケキョが何回も聞こえるようになりました。坂田ヶ池近くでは聞こえなくなりました。坂田ヶ池の斜面では、30羽ほどのマヒワの群れと遭遇しました。ほとんどが、地上に降りて、採餌に忙しそうでした。彼らは、私たちの後を追うようについてきました。池には何らかの理由で、カモの姿が少なかったです。コガモのつがいのそばに、コガモより大きな亀が、甲羅干しをしていましたが、望遠レンズでは、近すぎて、一枚の写真とし

ては撮れませんでした。池の駐車場近くには、ハシビロガモ、コガモ、オオバンの群れが、餌を撒く人たちの周辺に集まっていました。餌に近づくために、鳥たちは、盛んに飛びましたので、まだ現像していませんが、ハシビロガモなどの飛んでいるところの写真を撮ったのは、初めてです。シロハラは個体も多く、日向の芝生（学習院校舎前）では、至近距離で写真をとりました。（2011.02.27 田丸喜昭）

【マヒワ】

今年はマヒワが多いようですね、情報で出かけた利根運河にも、うじゃうじゃいて地上でしきりにエサを取っていました。日本鳥類保護連盟発行の図鑑には、わざわざ地上にあまり降りないと書いてあります。（2011.02.27 松田幸保）

【ウグイス】

26日、福島探鳥のため、湖北駅に向かっている途中、（多分朝6:30ころ）、ウグイスの正調を聞きました。私にとっては、初認です。やはり最近の中では、暖かい朝でしたね。（2011.02.28 松本勝英）

【古徳沼】

好天で暖かった6日（日）、日本野鳥の会茨城支部の古徳沼の探鳥会に十何年ぶりに参加しました。多数の機関銃撃手たちが沼べりをうめていました。（近くに整備された駐車場があるのに、狭い道路に所狭しと車を止めていました）。

探鳥会リーダーの説明では、今年から、鳥インフルエンザのために餌付けの量を大幅削減したために、例年安定していた、一日に滞在するオオハクチョウの数の上下幅がとても多くなっているそうです。自分たちで、周辺の沼や田んぼに手かけて餌探しをしなければならぬからと思われる。沼に行き着く手前の沼でも、20数羽のオオハクチョウを見ましたし、探鳥会の間にも、数羽の群れが飛んでいるのを何回か見かけました。コハクチョウは、この日、見かけませんでした。もう、北帰行が始まっているそうです。ハクチョウの北帰行には、二つのコースがあることが、最近の調査でわかってきたようです。南からくるハクチョウは、古徳沼で一休みし、山地を北へ飛び行くグループと、海岸線を日立市方向に飛び、さらに北へ向かうグループがあるそうです。

古徳沼には、30羽前後のヨシガモが、他の水鳥に混じって、岸近くにいましたので、良い写真が撮れたと思います。暖かい日差しの中で、♂♀が互いに頭を下げあいながら、恋の語らいをしているのも見れました。キンクロハジロやホシハジロなども見かけられました。古徳沼の奥手の藪では、茨城弁を含む多数のウグイスが9時半ごろから盛んにさえずり始めました。低い山を越え静神社方向に歩き、山すそを回り、古徳沼へ戻りました。楽しめる探鳥会でした。（2011.03.07 田丸喜昭）

【カラフトムシクイ】

山階鳥類研究所の平岡です。皆さんの情報を伺って、いずれ行かねばと思っていたカラフトムシクイですが、3/5の土曜日の夕方に、あけぼの山公園に出かけたところ、盛んに囀っていました。16時ごろ現場について、10分たらずしか見ないうちに移動し、すこし離れたところにしばらくいましたがそこから見えなくなりました。

なぜか移動前の場所では非常に盛んに鳴いていましたが、数十メートル離れた場所に行ったら全然囀りませんでした。おしゃべり系の囀りで、小さな鳥にしては大きな声です。当日は日中、冬の服装では暑いような日でしたが、夕方しか行かなかったので、日中どのくらい囀っていたかは知りません。（2011.03.07 平岡考）

【岡発戸谷津】

今日は快晴で風はやや冷たい日の中、岡発戸谷津から手賀沼下広場までぶらつきました。岡発戸谷津ではアオジ、ホオジロ、モズが目立ち、シジュウカラがガマの穂を啄ばんでいました。フィフィとベニマシコの声がするので探してみると、赤い♂が柳の芽吹きの中で鳴いていました。都部新田ではツバメが今期初見で、手賀沼ではカンムリカイツブリがすっかり夏羽でした。(2011.03.27 桑森亮)

3月幹事会報告

日時 3月13日(日) 午後1時30分～5時00分

場所 アビスタ 工芸工作

- 議題
- 1 総会議案の検討、決定
 - 2 会報220号の記載記事について検討した。
 - 3 報告事項
 - 1) パードウィークイベント「Enjoy手賀沼！」
 - 2) 美手連関係

手賀沼流域フォーラム in 印西は4月2日に開催。

手賀沼基金へ我孫子野鳥を守る会は助成金20万円を申請。

市民活動フェア in あびこ 2011

開催日は、2011年6月18日(土)・19日(日)の2日間。会場はアビスタ他。今回は、昨年のJBFで好評であったパネル展示などを主にして参加する予定です。フェアの今年のテーマは「ボランシカ つながるまち・つながる人・ひと・ヒト」です。昨年は過去最高の120以上の団体が参加しています。皆さんも是非参加して、地域の人や参加諸団体との交流の輪を広げてみませんか？ (浅井久)

新会員紹介

内山 博(柏市)

平成23年度会費納入のお願い

本年度の会費納入時期がきました。郵便局の払込用紙を同封しましたので早期にお振込ください。尚、既にお支払いの方はこの用紙を破棄してください。

年会費 2,000円(大学生・高校生1,000円、中学生以下500円 家族会員無料)

ほーほーどり No.220 (2011年5～6月号)

発行 2011年5月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel:04 7182 3972

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費2,000円(大学生・高校生1,000円、中学生以下500円、家族会員無料)